

水辺の活用策提案

区

まちづくり団体と意見交換

中

官民連携で水辺のにぎわいづくりを目指す
国土交通省浜松河川国道事務所のプロシエクト「ミスベリング・ハママツ」(静岡新聞社

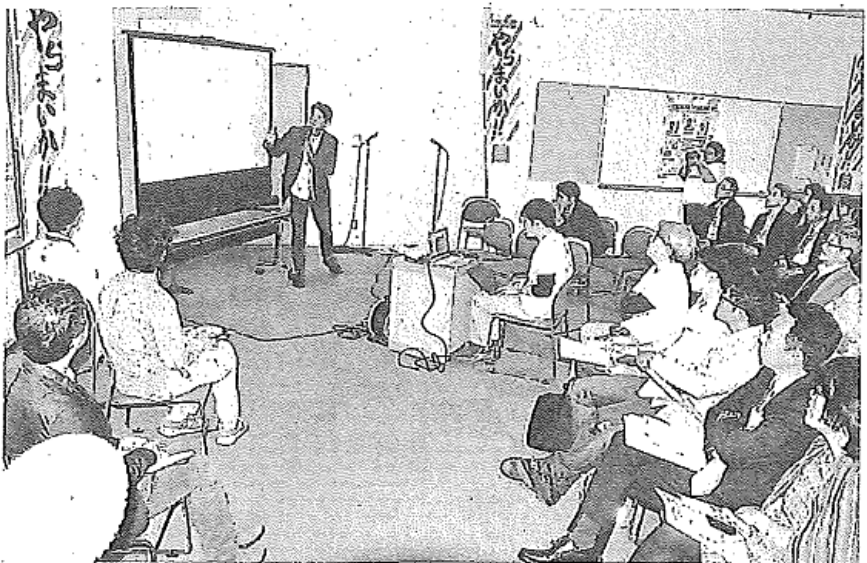
・静岡放送後援)の会合が18日、浜松市中区のアクトシティ浜松で開かれた。県西部の企業や行政の関係者らでつくるグループが水辺

の活用策を提案し、専門家と意見交換した。

10月のワークショップで結成した6グループがそれぞれの案を発表し、専門家として出席した都内で活動する

内で行われている先行事例も紹介した。トークセッションの後は参加者が交流し、それぞれの計画を実現させる方法を話し合った。

(浜松総局・井沢泰斗)



水辺の活用策について発表する出席者
＝浜松市中区のアクトシティ浜松

席した都内で活動するまちづくり団体の代表らが意見を述べた。河川敷をフィールドに自転車を使った競技やアウトドアを展開する案を発表したグループに対しては「自転車は一般の人が少し関わりにくい。初心者向けのサポートが必要」などとアドバイスした。川や湖でのクルージングを提案したグループには「貴重な体験ができることをどう発信するかが大事」と指摘し、都